| | | |
|---|---|---|
| 氏　　名 | 河角　敬太 | |
| 学位の種類 | 博士（医学） | |
| 学位記番号 | 甲第７０１号 | |
| 学位授与年月日 | 令和８年９月２８日 | |
| 審査委員 | 主査　教授 | 田村　研治 |
| | 副査　教授 | 鈴木　律朗 |
| | 副査　准教授 | 遠藤　昭博 |

## 論文審査の結果の要旨

本研究は日本人の進行肺癌患者において、初回診断時に合併する静脈血栓塞栓症（VTE）を予測する D-dimer のカットオフ値を明らかにすることを目的とした。多施設前向き観察研究である Rising-VTE/NEJ037 のデータを用いた post-hoc 解析で、根治切除または放射線治療が困難な肺癌患者のうち、診断時に D-dimer が測定されていた 976 例を対象とした。診断時に VTE を認めたのは 62 例（6.3%）で、その 82.3%は無症候性であった。ROC 解析から得られたカットオフ値は 3.3 μg/mL で、感度 74.2%、特異度 78.2%、AUC 0.794 であった。D-dimer 3.3 μg/mL 以上の 245 例中 46 例（18.8%）に VTE を認め、一方、3.3 μg/mL 未満の 731 例中 715 例（97.8%）では VTE を認めず、陰性的中率は 97.8%と高く、除外診断に有用であることが示唆された。本研究は、日本人進行肺癌患者における VTE という重要な臨床課題に対し、大規模多施設前向き観察研究のデータを用いて、初回診断時の D-dimer カットオフ値 3.3 μg/mL を明らかにした意義の高い研究である。特に高い陰性的中率を示し、VTE の除外診断や検査適応の判断に直結する実用性を有する可能性が示唆された。外的妥当性の検証を目指した次の研究も進行しており、学位論文として十分な新規性、科学性および臨床的価値を有すると考えられた。